

「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」（中間まとめ）
に対する意見について

指定都市教育委員・教育長協議会

当協議会は、今回の意見聴取にあたり、会員各市の教育委員会に標記の件に関して意見照会を行いました。その結果の概要は以下のとおりであります。

【教員育成協議会】

○教育委員会と大学を主たる構成員とする組織の構築の状況について

回答	回答の割合
構築している	約2.5割
構築していない	約7.5割

○構築している場合の主な内容

設置方式	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の大学が主体となり指定都市教育委員会が参加 ・指定都市教育委員会が複数又は特定の大学と協定等を締結
構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の大学、指定都市教育委員会、校長代表 ・特定の大学、道府県教育委員会、指定都市教育委員会、校長代表 ・特定の大学、道府県教育委員会、市町村教育委員会 ・特定の大学、指定都市教育委員会

【学校インターンシップ】

○学校インターンシップの導入及び教職課程への位置づけの必要性について

回答	回答の割合	回答の理由のうち主なもの
必要である	約8.5割	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの教員としての適性を把握することができる。 ・学校現場で求められる資質・能力を自覚しながら大学等で学ぶことが期待できる。
必要はない	なし	

(備考)

- ・学校の負担増加につながることを懸念される。
- ・教育実習との役割分担が明確ではない。

○学校インターンシップ類似の制度の導入の状況について

回答	回答の割合
導入している	約6割
導入していない	約4割

○導入している場合の主な内容

・大学との連携事業として、教員を目指す4年生及び大学院に在籍する学生を対象に研修生として受け入れを行っている。期間は毎年10月から翌3月までで、派遣先の学校等と調整しながら、少なくとも週1回以上実施することとしている。

・協定を結んでいる8大学で教職をめざす学生を対象とし、1年間または特定の曜日・時間に、教員とのチームティーチングによる学習指導などを行う。詳細については受け入れを承認した小・中学校と大学間で調整している。

・市立小・中・特別支援学校において、きめ細かい個別指導、支援等を行うために、教職を目指す大学2年生・3年生・4年生及び大学院生で、原則10日以上かつ30時間以上活動できる学生を学習支援ボランティア（アシスタントティーチャー）として配置している。

【教員採用試験における共通問題の作成】

○教員採用試験における共通問題の作成

回答	回答の割合	回答の理由のうち主なもの
賛成	約9.5割	・試験問題の作成に関する事務負担が非常に大きくなっており、その軽減につながるため。 ・問題訂正等のリスクの軽減につながるため。
反対	なし	

(備考)

- ・現行の試験日程や運営に大きな影響を与える場合は検討が必要。
- ・各市によって求める教員像が異なるため、共同作成した試験問題をアレンジすることが必要。